

受験費用・受験機会などの面で公平性に欠けることが大きな問題となったものです。また、数学の記述試験が数式のみ限定されることにもなっており、文科省の迷走により、子どもたちや学校現場に大きな混乱を招いています。また、民間企業が公教育に関わりすぎることへの懸念も膨らんでいます。

経済格差や地域格差が教育格差につながることをないように、全ての子どもたちにゆたかな学びを保障することをめざしたとりくみが必要です。

8. メディアリテラシー教育と図書館教育・文化活動

スマートフォンやインターネット等の普及により、子どもたちの世界は私たち教職員が考えている以上に広がりを見せています。その一方で、いじめや犯罪等に利用され、場合によっては、いのちにかかわる問題も出てきています。情報モラルやメディアリテラシー教育の重要性がクローズアップされています。

また、読書活動は、子どもたちのゆたかなところを育み、子どもたちの世界を広げ、生きる力の源をつくります。図書館教育は重要な役割をもっています。

タブレット端末や図書館機能を活用した教育活動は急速に進化しています。子どもたちが、溢れる情報の中から正しい情報にアクセスし、共生社会や平和を追求する世界観を拓き、自身の生き方を発見できるような、ゆたかな学びを保障するメディアリテラシー教育が求められています。

9. まとめ

教職員の超勤・多忙は、過労死レベルで限界を超えています。人も財源も増やせないのであれば、現在の学校現場の業務や行事を、削減を含め見直しする必要があります。私たちに求められる教育課題は時代とともに、高度化・複雑化しています。この超勤・多忙を生み出しているのは、今までよしとされてきた現在の学校のあり方や「学力観」です。この部分についても今までの慣習を見直し、議論を深め、批判的な検証を加えることも必要です。

教育研究集会はそれぞれの実践レポートをもとに、教育改革につながる議論をする場です。今日の教育課題について様々な意見の交換や相互理解にもとづいた議論をすることで、解決のためのヒントが見えてきます。今次教育研究集会の各分科会において、岩手高教組の教育活動をどのようにすべきかの討論をし、ゆたかな学びを追求していきますしょう。